

卒業後の豊かな生活や生涯学習の充実に向けての取組

県立特別支援学校市川大野高等学園の実践

県総合教育センター特別支援教育部

1 はじめに

本県では、「第2次千葉県特別支援教育推進基本計画」の下、共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進に取り組んでいる。この計画の重点的な取組の中に、「卒業後の豊かな生活に向けた支援の充実」が掲げられ、取組内容の一つとして、「生涯学習等の関係機関との連携」が挙げられている。

本稿では、県立特別支援学校市川大野高等学園の取組について紹介する。

2 県立特別支援学校市川大野高等学園の実践

(1)平成30年度の取組

本実践は、①学校卒業後の障害者の学びのニーズを明らかにすること②卒業後の学びの場として生涯学習講座を実施すること③卒業生の生涯にわたる学びの充実や社会生活への移行を支援することを目的として取り組んだ。

はじめに、学校を卒業した障害のある方が、社会で自立して生きる上でのニーズを探るため、同窓会員を対象にアンケート調査を行った。アンケートの結果から、同窓会員のニーズが高かったのは、スポーツレクやストレス解消法、音楽鑑賞等の余暇を楽しむ講座であった。その結果を踏まえて、10月に本校を会場に、グラウンドゴルフ、いきいきテニス、リンパdeデトックス、紅茶の世界の四つの生涯学習講座を実施した。それぞれの講座は地域の自治会や公民館、テニス協会等から講師派遣を含め御協力いただき実施した。講座の開催後は、企業、保護者、卒業生、職員にアンケート調査を実施した。卒業生を対象に再度アンケート調査を実施したのは、同窓会に

所属していない卒業生のニーズを把握する必要性を感じたためである。この調査の結果、卒業生本人は余暇を楽しむ講座にニーズがある一方、保護者からは金銭管理やグループホーム等、生活に関する講座にニーズがあることが分かった。企業や職員は気持ちのコントロールや人間関係づくり等、職場で役立つ講座にニーズを感じており、立場によって差があることが明らかになった。

(2)令和元年度の取組

今年度は、「学ぶ・楽しむ・つながる」をキーワードとし、大きく三つのプロジェクトを実施している。「学ぶ」プロジェクトは企業や福祉機関と連携し、ライフスタイルや社会生活について学ぶ場を設ける。「楽しむ」プロジェクトは公民館や大学と連携し、スポーツ等、余暇を楽しむ講座を実施する。「つながる」プロジェクトは、Webサイト等を利用した地域の各種講座の情報提供や、在校生向けに関係機関と連携した活動を提供する。また、本実践の推進・充実を図るため、生涯学習支援連絡協議会を設置した。大学や公民館、障害者就業・生活支援センターや教育委員会、自治会役員等にメンバーとなっていただくことで、関係機関との連携を強化し、より充実した持続可能な取組を目指していきたい。

3 おわりに

今後も、特別支援学校においては、卒業後の障害者の交流の場の役割を果たしていくため、文化やスポーツ、生涯学習等の関係機関との情報共有やネットワーク化などの一層の連携が求められる。